

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 9

2014年3月11日（火）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL: 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

鎮守の境内を地域の方が集う場に

小平神明宮宮司 宮崎和美

小川町一丁目の青梅街道に面した、御鎮座354年の神社の宮司と創立50年を迎えた幼稚園の園長を務めております。初詣の人々の波も終わり、どんど焼き・節分追儼（ついな）、そして「春祈祷（はるぎとう）」を経て、四月末の「八雲祭（やぐもさい）」を迎えます。

今から60年位前迄は、「地域コミュニティ」の一つの柱として、神社のまつり・家庭のまつりに関連した事共が位置していたと思います。

- ① 生活圏と生産・消費圏がほぼ同様だった。
- ② 長い年月の間、地域の世帯構成や、生産や生活の様式の変化は緩やかで安定していた。
- ③ 地域共同体の結び付きも熟成し解かりやすかった。

ところがこの40～50年の間に、そのどの点についても急激に、大規模に、多様に、連続的に変化しました。古い結びつきはその力を失い、ボールが投げられてもキャッチボールとして繋がらない様な、「コミュニティ不在の状態」が、約二世代に亘って続きました。

そんな中でも、沢山の個人や団体が独自の「発信の輪」を作ってきました。しかしそれが「新たな地域ネット」に成長するには、その必要性に気付いた人達に依る、倦（う）まず絶ゆまずの「語り合いの追求」が必要とされ

ます。この「小平西地区地域ネットワーク」の共有する思いと皆様方の地道な努力に敬意を表するものです。この「地域ネット」は、「虹色（レインボーカラー）の地域文化の創造」をもたらすでしょう。



世相は大きく変わり、祭礼の継続一つとってみても、今日、開放的な継続した努力が必要とされています。「神主が装束を着けて別格の位置にいた時代は終わった」とも言えます。神社が信仰の場としての本来の役割を果たすよう維持存続していくのは私共の中心的な務めですが、その上でも、節度はもちつつも、神社の様々な仕事にも地域の方々に対等に参加していただける方向で改革していくことが求められていると感じています。

正月の巫女さんは地域の娘さんをお願いしています。4月八雲祭の露店も地域の個人・商店・団体によって構成しています。6月12月の「茅の輪づくり」、9月例大祭の地域の方々の「奉納演芸会」、12月睦会の青年による「大しめ縄奉納」、有志の方に依る毎朝の境内清掃……今でも大勢の方の参加をいただいて神社が維持されています。これからも神社護持の様々なことにも、多くの方々に参加していただけるようにすることだと思っています。



「西地区地域ネットワーク」って何？

2012年3月17日にさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々が「お互いの顔が見える地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。

市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか？

私の職場紹介

サングリーン (旧あさやけ作業所)

布施千恵子

開設は2012年、定員は就労継続B型25名・就労移行支援6名で、開所日時：月曜日～金曜日まで9:00～16:00です。

サングリーンは、事業移行により旧あさやけ第三作業所と旧福祉工場エバーグリーンが統合し2012年より多機能型作業所（就労継続B型・就労移行支援）サングリーンとして再出発しました。

現在、就労移行支援に7名の利用者が在籍しています。昨年は4名の利用者が就職しました。サングリーンでは、

作業所に通所し『働く』ことに重点を置いています。日々、作業に取り組みながら、就労に向け1人1人の課題に合わせた個別支援計画を立て、個別に支援しています。就労支援センター等の関係機関とも連携し、希望する方には会社実習を実施しています。みなさん、就労に向けて頑張っています。

～サングリーンの作業風景～

縫製班 布巾作業・エプロン作業を行っています。



布巾作業は、原材料・原反（げんたん）を折る所から始まります。

調理班 ジャム（小平産のブルーベリージャム）・クッキー製造や昼食作りをしています。



昼食のコロッケをつくっています。

下請け班 ダイレクトメールの作業を行っています。



決められた納期に間に合うよう、みんなで力を合わせて作業しています。

石鹸班 石鹸製造・スポンジ包装作業を行っています。



米ぬかを使った台所用石鹸を作っています。

～就労移行の利用者から感想～

就労移行支援に入ってから、1年8ヶ月が経ちました。将来の就労に向けて毎日大変ですが、少しずつ自分が成長したような気がしています。自分は、職員やメンバー

の方に支えてもらい、ここまで来ることが出来ました。就労して少しでも会社に貢献できるよう、これからも頑張っていきたいです。

「中学生勉強会——分かったかい（会）？」に参加して・・・

生徒たちの気持ちを叶えたい

子ども学科1年 鈴木理紗子

私は「分かった会」の学習支援活動を通して指導をする楽しさを知ることができました。始めた頃は、どのように教えれば理解してもらえるのか、勉強を楽しく感じてもらえるのかなどたくさんの不安がありました。しかし、日を重ねるうちに生徒とも打ち解け、ポイントの教え方も徐々にわかるようになってきました。

生徒が内容を理解し、喜んでくれると自分も嬉しくなりもっとたくさんのことを教えられるようになりたいと思うようにもなりました。もっと理解を深められるように、はりきって事前にポイントをまとめたプリントを作るなど、とても楽しく活動しています。塾のような堅苦しさもなく生徒と指導者が仲良く会話できるのもこの「わかった会」の良いところだと思います。

生徒一人一人をもっと充実した環境で教えてあげられるような環境が整うことを望みます。生徒たちはもっと学力を高めたいと向上心をもって「わかった会」に参加しているため、生徒たちのその気持ちを叶えてあげたい。もっと地域の人々や学生に知ってもらい、参加してほしいと思います。

中学生を指導することについて「中学生の勉強は難し



くて自分には教えてられない」と考える人が多いと思います。私も始めの頃は中学生の勉強を教える前に教えられるほどの力が自分にあるのか不安でした。しかし、実際に指導に参加してみると、内容は想像していたより簡単でした。具体的にどんな内容を勉強しているのかを知れば興味をもったり、参加してくれる人は増えると思いました。

楽しかった最後のコミ・カフェ

家族・地域支援学科2年 茶原 綾乃

1月15日のコミュニティ・カフェは、この日が今年度の最後でした。小平の地域の方々、ケアセンター・ニチイの方々、デイサービス・オリーブの方々が参加し、古城さんがスウェーデンのミュージック・セラピーを披露してくださいました。

古城さんが演奏してくださった楽器はスウィングバギーターという弦楽器。障がいがある人、高齢者、子どもでもだれでも簡単に楽しく演奏することができる素敵な楽器です。他の人と一緒に演奏できることがこの楽器のもう一つの特徴です。

私もこの楽器を触ったのが初めてでしたが、地域の方々と一緒に楽しく演奏することができました。楽器を通じてコミュニケーションを取ることができるので、音楽療法として大変大きな効果が期待できるのではないかと思います。スウェーデンで生まれた楽器ですが、ぜひ日本でも様々な施設などで普及して欲しいです。

この日の企画は、昔の遊びに触れ合うというテーマで、

参加者が取り囲むテーブルには、学生の手作りお手玉、けん玉、紙風船、おはじき、百人一首などを置き、自由に手にとって遊ぶことができるようにしました。これらの遊び道具は学生がそれぞれ持ち寄ったもので、参加者の方々から『懐かしい』という声をいただきました。白梅幼稚園の園児とそのお母さんも参加して下さり、子どもが紙風船で遊ぶ姿を微笑ましく見守っている高齢者



の方々の姿がとても印象的でした。

コミュニティ・カフェでは、最後は学生が考えた季節に合った歌などを歌います。今回は「ふるさと」、「北風小僧の寒太郎」、「お正月」を古城さんの演奏で参加者全員で歌いました。スウィングパーギターの演奏も加わり、これまでにない豪華な演奏になりました。



コミュニティ・カフェの企画に一年間関わってきましたが、たくさんの方々と出会い、関わりをもつことができました。参加者が『楽しかった』『来月も来るよ』と言ってくれることが企画した学生からすると大変喜ばしいことでした。

企画が思うように上手くいかず、学生同士で反省会をしたり、話し合いを繰り返しながら一年間一生懸命にコミュニティ・カフェを運営してきました。草野先生や地域の方々のご協力があったからこそなし得たことであると思います。たくさんのご協力ありがとうございました。

来年度のコミ・カフェは大学の後輩に引き継がれることとなります。彼らに、地域の方々にもっと喜んでいただけるようなコミ・カフェの場を作り上げることに全力で取り組んで欲しい、と願っています。

私の街紹介

栄町2丁目はこんな町です

民生・児童委員、自治会長 川村 信子

「小平西のきずな」をご覧の皆さま、こんにちは

私は、栄町2丁目の民生委員・児童委員と栄町あんず自治会の会長をしています。小平市には5歳から住んでいます。栄町歴はまだ12年の新参者です。今回、大好きなわが町を紹介します。

20数年前はウドや栗などの産地で、お隣の3丁目からも西武拝島線の電車が見えたそう。でも、今では東西南北に碁盤の目状に道が走り（私は慣れない時に、マジ、自宅への道を間違えました）、そこに大小30の集合住宅と7件の事業所、公園が3か所。小児科が1軒。最近、市内2か所目の病後・病児保育のたんぼぼが開所しました。

そこに、619世帯、1554人が住んでいます（4年前の数字です）。周りの町よりは若い方たちが多く、子どもたちが公園や道で遊んでいます。歴史ある神明自治会に入っておられるお宅もありますが、ほとんどは自治会と縁がない地域でした。東北大震災の後、自治会が必要との声があり、41軒の小さなあんず自治会が誕生しました。都市整備もなんとか整っていますが、やはり、ひとびとの絆は、より深まるほうがいいな、と皆さんが思われたのでは…。

自治会は防災・防犯が目的で、会費、回覧板、持ち回り役員がなく、年に一度の防災訓練と様々な情報をお届けするのが仕事。役員はまさに、ボランティア（自発的）。

私も、そういう立場になって改めて2丁目に目をむけてみたら、あちこちにいろいろなボランティアさんを発見。ゴミステーションをきれいにしている人、公園で何気なく子ども達をみている人、隣近所の高齢の方に気配り、目配り。また、落ち葉はきを地道に続けておられる方、自宅を花と緑いっぱいにして、道行く人を楽しませてくださる方。公園の花壇のお世話を続けておられる方。13小や2中でボランティアをされている方も。そうそう、うちの夫も趣味で飼育しているホタルを皆さんに見て頂いて喜ばれました。

栄町、全国にいっぱいある町名。タクシーに乗る時は「小平市栄町」と言わないと、もしかしたら立川か東村山に向かってしまうかも……。お隣の由緒ある小川町がちょっぴり羨ましいけれど、栄町がふるさとになってきました。

(写真は栄町の街並み)



ほっとスペースさつき 開所から1年・・・

さつき副代表 森山千賀子

コミュニティ・サロン—ほっとスペースさつき（以下、さつき）は、2013年2月28日に、鷹の台駅から歩いて5分の鷹の街道に面したアパートの一室にオープンし、1年が経過しました。この1年を通じて、高齢者、障害者、学生、児童など、1日に約10名の方に利用して頂き、地域の方の憩いの場として定着しつつあります。

また、70名以上の地域の皆さまから支援協力金を頂き、その一部は誰もが安心して安全に過ごせるための環境づくりのために活用させて頂いております。さらに、半年の間で10件程の新聞や雑誌等からの取材があり、鈴木公民館や津田町公民館等での講演・報告の機会も得ることができました。加えて、5月26日（日）及び11月24日（日）のさつきの場でのミニバザーにおいても、地域の方々が立ち寄って下さいました。

（写真：さつき（五月）ミニバザー）



さらに7月には、公益財団法人草の根育成財団より助成金（平成25年度草の根事業育成財団助成2013年8月～2014年3月）を、2事業において頂くことができた。それらは、①世代間交流を促進するコミュニティ・サロンの運営、②地域の居場所づくりのための支援者育成事業です。とりわけ、支援者育成事業においては、2013年9月より白梅学園大学を会場にして3回にわたる学習会

を開催しました。各回のテーマは、第1回目は「世代間交流や高齢者・子どもの居場所づくり」（9月13日）、第2回目は「発達障害・精神障害について」（11月8日）、そして第3回目は「居心地の良い居場所づくり」（2014年2月21日）でした。各回の内容も充実したものであり、その場で出会った方々との交流の輪が広がったと思われま

（写真：第2回学習会の様子）



さつきでは、運営会議を毎月1回開催し、各月の経過報告、気づきや課題等について確認してきました。利用される方々を通しては、①心の病、重荷を抱えた人、認知症の人とご家族などの利用があり、各々がお元気になる様子が見受けられ、②50歳ぐらいを過ぎて小平に越してきた人は、人とのつながりが薄く、そのような人にとっても居場所になっていることなどが見えてきました。また、乳幼児から高齢者まで誰もが安心して安全な環境づくりの必要性から、来訪者が入りやすい言葉かけの工夫や子どもには危険な箇所の点検などを行いました。

支援者・関係者の方々には、2013年3月～7月までの実績・経過報告集をご送付させて頂きました。現在、年間報告も作成中ですので、今しばらくお待ちください。皆さまのご期待に応えられるよう、アンケートも計画中です。今後とも、宜しく願いいたします。

多世代交流の効果、必要な知識や心構えを学習！

—ほっとスペースさつき第3回学習会—

森山千賀子

ほっとスペースさつき第3回学習会（平成25年度草の根事業育成財団助成事業）は、2014年2月21日の15時～18時に白梅学園大学I13講義室で開催され、寒い時期にも関わらず32名の方々をご参集されました。



(写真：第3回学習会の様子)

NPO法人日本世代間交流協会理事の柿沼幸雄さんは、「多世代間交流がもたらす効果と地域の居場所」というテーマで、居心地のよさ＝満足度＝幸福であり、お金があっても幸せではない。あらゆる世代が知識と資源を交換しあう互恵性。親や高齢者の姿は明日の自分の姿。Give&Give。などのキーワードとともに、世代間交流コーディネーターの必要性（理解・共感性・柔軟な発想力、企画力・世代間を縦につなげる役割）について話されました。

NPO法人子育てサポートきらら（以下、きらら）代表の井上明子さんは、「乳児・幼児の子育て支援と地域の居場所」というテーマで、きららの成り立ち、きららin白梅、中野産婦人科でのベビーサロン、小学校や公民館

などでの活動を踏まえ、きららが考える居心地の良い居場所について話されました。それらは、出会いの場（スタッフだけでなく利用者同士も）・生きた情報が得られる場（若い世代はネットで情報を得がち）・くつろげる場（実家に来たような）・一緒に育つ場（スタッフも利用者も）です。



(写真・左が柿沼さん、右が井上さん)

その後のフロアと講師との意見交流では、学校という場は地域にとって安心できる場。現在のさまざまな状況を家族の問題にせずに社会全体で考え、出来ることを出来る環境でやっていくこと。子どもだけでなく親子で楽しむ場づくり。叱るとしつけの違いなど、居心地の良い居場所づくりのためのヒントが沢山出されました。

そしてなにより、3回にわたる学習会そのものが多世代交流の場、出会いの場、学びの場であったと思われま。ご参集くださった皆さま、講師の方々、ありがとうございました。

増える“行き場”のない中学生たち…

(二中地域教育懇談会報告)

白梅学園大学 奈良 勝行

3月5日（水）午後7時から小川西町公民館で二中地域教育懇談会が開かれました。参加者は、教員組合の先生、保護者、元小学校教員、大学研究員など9人。当日は、現職の高校の先生が先ごろ実施された都立高校入学試験と都立高校制度の概要について次のように説明。

*今年度の都立高校全日制的平均倍率は1.42倍。*チャレンジ・スクール（単位制。小・中学校での不登校や高校での中途退学を経験した生徒などが入る高校）が1.64倍、*エンカレッジ・スクール（小・中学校で十

分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張り励ます学校）が1.74倍。

近年の経済不況や大学進学率での“都立復活”により都立高校への志望者が増加。その面では良い点もあるが、問題なのは、新しいタイプの学校も含め、どのグループの学校も目指すは「進学率向上」。上位校はもとより、中堅校も土曜学習、補習などを拡大実施し、すべて「大学進学者を増やせ」競争に走らされているかのようである。

一番問題なのは、昔と違って、「一発勝負」で決めな

くはならず、失敗した生徒は狭き門の2次募集に。それもダメならほとんど“行き場”がない(わずかに通信制やサポート校があるのみ)。実は、こういう“行き場”のない生徒が増えている。(写真：懇談会の様子)



参加者から次のような意見が出されました。

- ① 子どもたちはまた新たな「選別」にさらされている・・・「一部のエリート、中間層、下位グループ」。
- ② 昔のような「学校群制度」のときはどこかに入れ

た、が今は・・・？

- ③ 30～40年前の高校増設運動当時は、保護者や先生方の努力で運動が盛り上がった、けど今は・・・？
- ④ 低学力の生徒や行き場のない生徒が増えている、それが青年層の自殺率の向上につながっている
- ⑤ 地域発の教育運動をもう一度起こす必要があるのでは・・・

懇談会の終わるころ、参加者の中にどうにもならない陰鬱な暗い雰囲気は漂いました(特に中学生のお子さんを抱える保護者から)。この際、「わが子だけはなんとか都立のいい学校へ」といった狭い考えでなく、先生方や保護者が学校以外で率直に懇談する場を設けて話し合っていく必要があるのでは・・・といったのが当日の結論でした。

次回の教育懇談会は4月9日(水)午後7～9時、小川西町公民館にて。

特に、第一ブロックの方々にご参加をお薦めします。

<小平西地区地域ネットワーク>

2013年4月～2014年3月11日までの活動

◎全体

- 4月16日(火) 第11回学内打合せ
- 5月14日(火) 第8回世話人会
- 5月28日(火) 第10回懇談会
小平市介護予防見守りボランティアのモデル事業について
報告：地域包括センターけやきの郷(増永ハツコさん)
- 6月11日(火) 第12回学内打合せ会
- 7月9日(火) 第9回世話人会
(7月20日 第1小学校納涼祭に参加)
- 7月30日(火) 第13回学内打合せ会
- 9月21日(土) 第11回懇談会
小川公民館井上館長のお話
- 10月1日(火) 第14回学内打合せ会
- 10月8日(火) 第10回世話人会
(白梅祭：顔の見える地域—小平西地区地域ネットワークのきずなづくり)
職業能力開発総合大学校との交流
福島への絵本支援
- 11月19日(火) 第15回学内打合せ会

- 12月3日(火) 第12回懇談会
国立ハンセン病療養所沖縄愛楽園・早田医師 DVD上映
- 12月12日(木) 小川公民館で「中学生勉強会」スタート
- 1月14日(火) 第16回学内打合せ会
- 1月28日(火) 第11回世話人会
- 2月2日(日) (第12回白梅介護福祉セミナー「地域包括ケアシステムを問う」)
- 2月18日(火) 第17回学内打合せ会
- 3月6日(子育てネット公開研究会 ソーシャルキャピタル)
- 3月11日(火) 第13回懇談会。(講演：小平市歴史編纂室室長 蛭田廣一さん)

◎広報誌の発行

- 「西のきずな 第6号」(2013. 5.14)
- 「 同 第7号」(2013. 9.21)
- 「 同 第8号」(2013. 12.3)
- 「 同 第9号」(2014. 3.11)

スタディ・パートナー募集！

(中学生の勉強のお相手)

—西ネット中学生勉強会(通称:「分かったかい(会) ?」—

現在このパートナーが不足がちです。市民どなたでもパートナーをやっていただけます。下記のように募集しています。お知り合いの方を紹介していただけませんか？

記

開講日時：毎週 木曜日 午後6～8時

会場：市立小川公民館

〒187-0032 小平市小川町1-1012

電話&Fax：042-343-3620

西武国分寺線「鷹の台駅」から徒歩6分

定員：10人(定員に達し次第締め切ります)

対象：大学生、退職した市民、主婦など

謝礼：無償

科目：国語・英語・数学を基本

主催：小平西地区地域ネットワーク

後援：小平市教育委員会、小平・教育と子どもを守る会

申込み締切：(特になし)

申込先：奈良 勝行(なら・かつゆき)・白梅学園大学 教育・福祉研究センター 研究員

☎：090-4435-4306

FAX: 042-344-7237

E-mail: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp



ネットワーク担当者一覧

(各地区のイベント、相談事は世話人にご連絡ください)

ブ ロ ック	世話人	教職員
1	西 克彦・布 昭子	井上恵子・山路憲夫・ 瀧口 優・福丸由佳
2	芳井正彦・足立隆子	関谷栄子・土川洋子
3	石川貞子・久保田進 穂積健児・大内智恵子	草野篤子・瀧口真央・ 西方規恵・牧野晶哲
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田 誠 細江卓朗	杉本豊和・森山千賀子
全 体 的		奈良勝行・成田弘子・ 吉村季織・長谷川俊雄

(注：敬称略)

今後の予定

4月15日(火) 学内打ち合わせ

5月13日(火) 世話人会

27日(火) 懇談会

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。奈良：メールアドレス

ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記：皆さん、いかがおすごしでしょうか？2月は例年にない大雪が2日もありました。3月になってもまだ寒い日が続く毎日。ようやく「きずな第9号」を発行できました。今後も皆様の協力を得てさらに充実させていきたいと思います。よろしくお祈りします。(N)